

110110年度 一般入学試験 問題（国語）

次の文章は、小田嶋隆氏の『ポエム万歳』の一節である。よく読んで、後の設問に答えなさい。（なお、設問の都合上、本文の一部を省略したところがある。）

2013年8月のはじめに、Aちょっと不思議なニュースが流れてきた。

自動車の「当地ナンバーとして東京都世田谷区が新設を要望している「世田谷ナンバー」について、反対派の住民が、国土交通省にナンバーを認めないよう求める訴訟を起こしたというのだ。

第一報を報じた読売新聞の記事によれば、訴状の中で、原告側は、「ナンバーで世田谷区民だとわかり、プライバシーが侵害される」「ブランド価値の高い今の『品川』ナンバーを手放したくない」と主張。区が4月に発表した、「アンケート調査に答えた区民の約八十%が賛成した」との結果について、「回収率は五十%に満たず、回答者のうち運転免許証がない人が約四十%を占めるなど、民意が正しく反映されていない」と批判した》（2013年8月1日読売新聞電子版）ことになっている。

訴訟は、このあと、結局、取り下げられることになるのだが、自分たちの住んでいる地区の名前を冠したナンバープレートを忌避する住民感情が、一部であれ、世田谷区民の中に生まれていたということは事実で、私はこのことに、強い印象を受けたわけなのである。というのも、私の抱いている感じでは、最近、世田谷の人たちは、自分が世田谷区民であることを隠そうとするようになつていて、このたびの訴訟騒ぎは、私の中にあるその「世田谷アピールを嫌う新しい世田谷区民」のイメージと、よく一致していたからだ。

訴状の中で、原告の世田谷区民は、「ブランド価値の高い今の『品川』ナンバーを手放したくない」旨を主張している。

思うに、この言い方の中に、既にある韻昧の気配が漂つている。というのも、「世田谷ナンバー」と「品川ナンバー」を比べたら、ブランド価値は「世田谷ナンバー」の方がむしろ高いはずだからだ。

「品川ナンバー」は「港、中央、千代田、品川、目黒、渋谷、大田、世田谷」の広範囲な区をa ホウセツする比較的曖昧な地域標識だ。引き比べて、「世田谷ナンバー」は、ピントで世田谷オンリーを指示示す、より印象鮮烈な①だ。ということは、「世田谷ナンバー」は、「地域ブランド」をより強くリブレゼントしているという意味で、「ブランド価値」は、その分だけ高いはずなのだ。

原告住民が持ち出していた世田谷ナンバー忌避のもうひとつの中理由である、「ナンバーで世田谷区民であるとわかり、プライバシーが侵害される」という主張は、さらに奇妙だ。世田谷区は、八十万以上の人口をかかる巨大な区だ。人口や経済規模で言えば鳥取県や島根県よりも大きい。その八十万人余のうちの一人であることが明らかになつたのだとして、それをプライバシーの侵害と言い立てるのは、いかにも無理筋だ。

本当のところ、原告である世田谷区民が、「世田谷ナンバー」の掲示に懸念を抱いた真の理由は、他区民による「やつかみ」を恐れたからだと思う。ただ、訴訟を起こすに当つて、まさか、「他区民によるねたみそねみひがみやつかみがうつとうしいから、世田谷ナンバーは採用しないでほしい」と、正面からぶつちやけた話を申し立てるわけには行かない。そんなことをしたら、それこそかえつて他区民の反発を招くことになる。だから、表向きは、「プライバシー」だと、「ブランド」みたいな耳になじみやすい話を持つてきた、と、そういうことなのだと私は踏んでいる。

そもそものはず、やつかみは、「二十一世紀の代表的な時代思潮だつたりする。たとえば、区外で路上駐車をしたとする。と、「世田谷ナンバー」が、当地の住民の反発を買つて、傷をつけられたり、悪くすると車上荒らしを**a** ユウインする結果を招くかもしれない。「おい、世田谷ナンバーのベンツ様が白昼堂々違法駐車だぜ」「わが〇〇区を植民地だとも思つてるのか？」

「制裁だ制裁。おい、百円玉出せよ」

とすれば、世田谷というブランド価値の高い**②** をあえて誇示するような態度は、クルマのオーナーにしてみれば、やはりはばかられるはずなのだ。

私の知る限り、昨今の世田谷区民は、自分が世田谷区民である旨を開示する事態に立ち至つた場合、大変に**c** シンチヨウな態度で臨む人々になつてゐる。

「いや、世田谷といつても駅から遠い山の中みたいなものですから」「もう、ほんの猫の額みたいな地所にマツチ箱みたいな家をこしらえて暮らしているありますまでして」

「いえいえ、世田谷と申しましても、親が建てた家にそのまま住んでいるだけの話で、しかも地面も借地なら家作は築四十年のボロ家ですよ」

と、彼らは、自分の住居が「世田谷の**d** ゴウティヨク」であるというイメージを**e** フツシ

ヨクするため、言葉を尽くして自宅のありようをクサしにかかる。

ほかの、たとえば北区や板橋区の住民は、いちいち自分の家を卑下しない。

「お住まいは？」

「赤羽です」

「B……ああ、便利なところですよね」

「ええ、大変に交通至便です」

私は胸を張る。多少自慢をしたところでイヤミにならない自信があるからだ。

世田谷だところはいかない。

「お帰りはどちらの方面ですか？」

「世田谷です」

「おお、高級住宅街ですね」

「おっしゃる通り。たしかに高級です」

みたいな、こういう受け答えはあり得ない。やれば袋だたきに遭う。

記憶する限り、昭和の時代の世田谷人種は、二十一世紀の世田谷区民と比べて、ずっとおおどかな人々だった。

「おお、世田谷ですか。素晴らしいところにお住まいですね」

と、対話の相手からお追従まじりの賞賛を投げかけられた場合、昭和の世田谷衆は、

「いやあ、はははは

と、あくまでも鷹揚に受けとめていた。

相手のおfセジにおつかぶせて自慢を塗り重ねる態度こそ採用しなかつたものの、決して自分の家の狭さを訴えたり、雨漏りやネズミとの同居を申告したりはしなかつた。で、その、いかにもものにこだわらない、変へりくだつて構えない③の大きさが、世田谷衆の美点でもあったのである。

ところで、当稿の主題は、「変遷する世田谷氣質」ではない。

今回は、二十一世紀の日本人が、異様に謙虚に構えるようになつてゐる現状と、その背景について考察してみたいと思つてゐる。冒頭から並べ立ててきた世田谷住民の変化は、その一例に過ぎない。

つまり、われわれの住んでゐるこの国では、この十年か二十年の間の変化として、資産であれ、血統であれ、学歴であれ、勤務先の知名度であれ、自分に関する④を他人に誇る態度が、最悪のマナーとして忌避されるようになつてゐるわけで、遠回しの自慢であつても、何かをひけらかしていと見なされたが最後、その人間は、⑤のターゲットとして⑥されるのだ。

昭和の日本人は、もつと無邪気に自慢をしてゐた。そして、誰であれ、自分が誇りに感じていることをまっすぐに他人に伝えようとする人間は、どちらかといえば愛すべき正直者として、人々の敬愛の対象になつてもいた。田中角栄にしても中曾根康弘にしても、あるいは革新の方の政治家であれば、宮本顯治にしても浅沼稲次郎にしても、彼らの演説の三割がそこらは、自身の業績や刻苦勉励を伝える、広い意味での自慢話であつた。で、その演説は、人々に愛されてゐた。

極端な言い方をすれば、二十世紀の日本では、臆面もなく自慢話をする人間と、そのまま自慢話をモロに感心して聴く人間が多数派を占めていたのである。

当今の政治家は、何かにつけて「させていただく」と言う。

「このたび、党代表のご指名をいただいた〇〇でござります。これから、私が取り組ませていただき党改革の道筋についてご説明させていただ…」

単なる用語の問題ではない。心構えの問題だ。

おそらくわれら現代人の過度な謙虚さの背景には、インターネット時代になつて表面化した「匿名の惡意」がある。

人目に立つ人間に對して排除の感情が寄せられることそのものは、いまにはじまつたことではない。嫉妬は人類発祥とともにある極めて古い情動であり、人々を動かしているもつともgキソテキな動因のひとつでもあつたはずだ。

が、嫉妬は、そもそも陰陽で言えば陰の感情だつた。それゆえ、その身のうちに嫉妬を抱いてゐる人間がいたとしても、彼または彼女は、自分の中にあるその感情を、大っぴらには表明しなかつた。というよりも、ほかのいくつかのネガティブな感情と同様、嫉妬は、あくまでも内心の動きであつて、態度や言葉に出ない水面下の流れに過ぎなかつた。

ところが、インターネットが登場して以来、ねたみそねみひがみやつかみは、その正当な噴出口を獲得するに至る。

嫉妬は、昭和以前の全時代を通じて、たとえばバレエのトウシューブーズの中に画鋲を忍

ばせておくみたいな形で表現される激越な感情だった。逆に言えば、それは、トウシュー
ズの中に画鋲を仕込むテの隠微な形式でしか具体化し得ない、極めてマイナーな感情だつ
たわけで、そうであるからこそ、嫉妬は抑圧され、陰に籠もり、多くの場合胸の中で摺り
つぶされて、結局のところ、時代や社会を動かす主要な動力源にはなれなかつた。

ところが、世紀末をはさんで、インターネットというコミュニケーションツールが登場
すると、そのC仮面舞踏会じみた巨大な会合には、匿名の言論を糾合する漏斗管のような
機能が、あらかじめ⑦されていた。

と、あらゆる感情はその同調者を集め、増幅され、共振するようになる。特に巨大化し
た不規則言論は、⑧Iと呼ばれる言論テロを招くに至る。

その中でも、嫉妬をはじめとするネガティブな感情は、元来抑圧されていただけに、ネ
ットを介することで、俄然、大きな倍率で増幅されることになつた。

多くの人々が匿名の発言機会を得たということは、たとえて言うなら、誰もが透明人間
の時間を持つていて世界と似ている。誰にも見とがめられない中で何かをする時、人は、
普段よりいくぶんか悪辣な人間になる。これは、理の当然というのか、人間性の必然であ
る。

てなわけで、IIのネット言論の恐ろしさを知った人々は、結果として、目立つこと
のリスクに対して、過度に敏感になる。

と、人々の⑨は「好かれよう」として励むことよりも「嫌われまい」と身構えるこ
とにより熱心になる。

話を戻せば、世田谷の住民が、世田谷アピールをhヒカえるようになつた理由のひとつ
は、ネット言論に触ることになつた世田谷区民が、インターネットの中で自分たちの
住んでいる土地がどんな言われようをしているかについて、応分の知識を得たからだ。
これは、世田谷区民に限つた話ではない。ネット内では、何であれ、自慢をする人間は
徹底的に叩かれる。そして、このマナーは、⑩な世間の人付き合いに逆輸入される。
いやな時代になつたものだ。

もつとも、率直なところを述べるなら、私は、平成の日本人が謙虚を旨とするマナーを
身につけたことを、大筋としては、iカングイしている。一例を挙げるなら、若い女性
がこれみよがしなブランド誇示をしなくなつたことは、この国の庶民の平均的なファッシ
ヨンセンスが、ある洗練の域に到達したからだと思つてゐるし、でなくとも、⑪崩壊
以来の二十有余年を、不況の中で暮らしてきた結果、われわれが街示的消費（自分の財力
を誇示するために行う派手な消費行動）に狂奔した段階から一步前に進んだことを意味し
ているのだと考へてゐる。

が、淋しき感じている部分もある。jタンテキに言えれば、私が残念に思つてゐるのは、
二十一世紀の若い人たちが、自分の個性や才能を表現することをはばかつてゐるように見
えることだ。

「いや、ボクは普通の人間ですよ」

という言い方は、まことに上品な態度だとは思うのだが、Dせめて若いうちは、もう少し
下品であつても良いのではなかろうかと思つてしまふのだ。

だつて、どうせおっさんになつたらただの人になるのだぞ。せめて、若いうちぐらいは

非凡を気取つたつて良さそなものじゃないか。

「この5年ほどの間に定着したネット内の流行語のひとつに「才能の無駄遣い」という言い回しがある。

一人多重録音によるフルオーケストラのモノマネ、素つ頓狂な素材を使つた工作や絵画、寄せ集めのチームによる奇想天外なダンス、ピンポン球を使つたりフティング芸、野菜を加工した楽器による超絶技巧の演奏……といったいずれも見事な個人のパフォーマンスに対して、ネットに散在する観客から、「なんという才能の無駄遣い」という賞賛の声が同時多発的に投げかけられたのが、最初のきっかけだつた。

彼らの間には「嫌儲」^{けんちよ}という共通の思想がある。ネット上の出来事をカネに換えてはならないという、異様にストイックな考え方だ。

とにかくそんなわけで、インターネットの中のコンテンツ制作現場では、「職人」と呼ばれる動画作成者や、「P」と総称される「初音ミク」（音声合成ソフト。プログラミングで自在に歌を歌わせることができる）界隈の作詞作曲家が、いずれも、ほぼ無償で、渾身の作品を世界に向けてばらまいている。素晴らしいと言えば素晴らしい。

でも、このままでは文字通り才能が無駄に遣われてしまう。私はそれを心配している。できれば、徒花^{あたな}に見える才能に水（つまりお金）をあげてほしいと思う。やつかみでは、花は育たない。才能に対しては、嫉妬をぶつけるのではなく、対価を支払おうではないか。でないと、クールジャパンは、早晚凍り付く。急げ。先は短いぞ。

（設問）

問一 a j のカタカナを漢字になおしなさい。

問二 ① ⑩ に入れるのに最も適当な表現を、それぞれ選択肢の中から一つ選んで、その記号を答えなさい。

- | | | | |
|---------|---------|-------|----------|
| あ スタンス | い スペック | う タグ | え バッティング |
| お バブル | か ビルトイン | き モード | く リアル |
| け ロゴマーク | こ ロックオン | | |

問三 傍線部A「ちょっと不思議な」とあるが、どのような点が不思議なのか。簡潔に説明しなさい。

問四 傍線部B「……」は、この話者が一瞬、言葉につまつたことを表している。話者はなぜそうなったのか、簡潔に説明しなさい。

問五 傍線部C「仮面舞踏会じみた巨大な会合」とあるが、その「会合」の性格として適当なものを二つ、次の選択肢の中から選んで、その記号を記しなさい。

- ア 欧米が発祥地であること
イ 主に、夜間に開かれること

ウ 参加には、かなりの額のお金が必要なこと

エ 主催者の意志が裏で働いていること

オ 素姓を隠して参加できること

カ 何らかの事件が起きやすいこと

キ 日常を離れた、過激な発言をしやすいこと

問六

・

に、適当な言葉を入れなさい。但し、Iには漢字二文字で、IIには次の選択肢の中から最も適当なものを選んでその記号を、入れなさい。

(I) ア 惡事千里 イ 五里霧中 ウ 千変万化 エ 百鬼夜行

オ 複雑怪奇

問七

傍線部Dに「せめて若いうちは、もう少し下品であつても良い」とあるが、

(1) 「もう少し下品」とは、ここではどうすることか、本文中から十五字以内で抜き出しなさい。

(2) 「もう少し下品」にすると、どのようなことが可能になると考えられるか、四十字以内で説明しなさい。

問八

本文に記されている他に、インターネットにはどのような問題点があると思うか。

一つの点について、具体例を挙げながら、百字以内で説明しなさい。